

さいたま新都心将来ビジョン 改定版 中間案

第1章 さいたま新都心将来ビジョンについて

1. 改定の目的

- 平成26(2014)年3月に、さいたま新都心周辺地区のまちづくりの基本的な指針として、「さいたま新都心将来ビジョン」を策定。
- この間、地区の基盤整備は概ね完了し、大規模土地利用転換も進行する中、ビジョンの運用期間である10年を迎える。
- そこで、まちを取り巻く変化に対応し、さいたま新都心※¹の更なる発展のため、ビジョンを改定。
- 令和3年12月に改定の骨子(案)をとりまとめた。

※¹ さいたま新都心:まちの名称

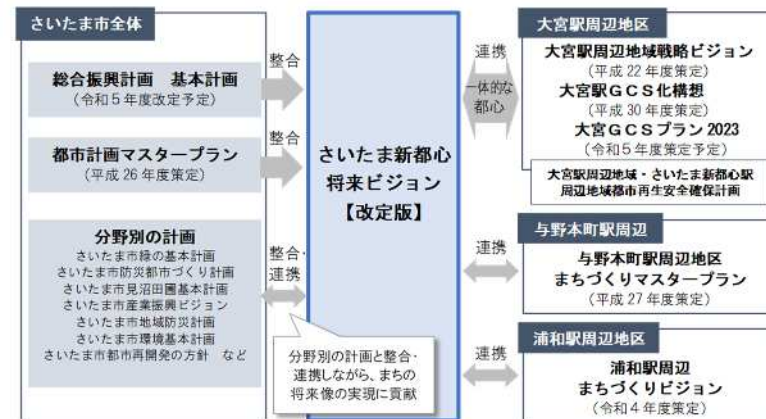
- 改定の視点:** ①2014年策定ビジョンの継承 ②まちを育て、活用していく時代に向けた戦略検討
③まちの変化や今後の社会の変化を見据えた新たな都市モデルの提示
④市役所本庁舎移転に合わせたまちの付加価値の向上

2. ビジョンの目標年次

- 概ね30年後(令和32(2050)年頃)のまちの将来像を展望したうえで、本ビジョンの運用期間を概ね10年とする。

3. ビジョンの位置づけ

- 本市の上位計画及び関連計画と整合を図り、今後のさいたま新都心のまちづくりの基本的な指針としての役割を担う。



4. 上位計画におけるさいたま新都心の位置づけ

- 広域的な位置づけ/国土形成計画、首都圏広域地方計画**
新幹線駅を有する大宮と一体的な都心を形成し首都圏と東日本全体を結ぶ交通の要衝に位置することから、東日本の玄関口としての機能を果たし、三大都市圏が一体化した交流圏域を支える対流拠点である。
- 本市における位置づけ/総合振興計画基本計画**
本市の顔として、高次な都市機能を集積し、広域的な都市活動や市民生活の拠点としての役割を担う。

5. ビジョンの対象区域

- 前ビジョンの検討対象区域(さいたま新都心周辺地区)は、北側を南大通東線、東側を産業道路、南側を赤山東線、西側を国道17号線と北与野駅周辺で囲まれた区域(約200ha)であった。本ビジョンについては、前ビジョンの対象区域の外側で進められているまちづくりとの効果的な連携等が重要であるため、対象区域を明確に限定しないこととした。

■ ビジョンの対象区域について



第2章 さいたま新都心を取り巻く状況

1 まちの成り立ち

- 昭和61(1986)年の第4次首都圏基本計画において、旧浦和市、旧大宮市が業務核都市の指定を受け、平成元(1989)年に大宮操車跡地に政府機関の集団的移転が決定、さいたま新都心土地区画整理事業が都市計画決定されたことに始まる。
- 平成12(2000)年に国の18機関の移転が開始され、さいたま新都心駅の開業で「さいたま新都心」がまちびらき。その後、商業、医療、業務、行政施設の立地、さいたま新都心バスターミナルや公園の整備等が進む。

2-1 まちびらき当初の計画目標と残された課題

〈まちびらき当初の計画目標〉

- 「自立性の高い都市圏を実現」「首都機能の一翼を担う」「埼玉の辻をつくる」をまちづくりの目標に掲げて土地区画整理事業が進められた。

〈残された課題〉

- 常に、にぎやかに人と物が行き交う創造的で楽しい都市空間形成の追求
- 大宮駅周辺地区との回遊動線の確保

2-2 現在のまちの価値と魅力、課題

〈価値と魅力〉

- 都市機能(商業施設・交流施設・宿泊施設)が集積されかつ、多様な種類のイベントが開催され、平日・休日ともに多様で多世代の来訪者が訪れている。
- 大規模医療機関や防災公園等、災害時における安全が確保されており、強靱性が備わっている。
- 魅力的な自然及び歴史文化資源が近接している。

〈課題〉

- 地区全体の回遊促進
- エリアマネジメント組織の自立的な展開
- 人口増加に応じた住環境の形成

2-3 本市の政策課題

〈課題〉

- さいたま新都心周辺の関連プロジェクト(さいたまセントラルパーク、大宮駅西口交通結節点)や地域資源(氷川参道、見沼田圃)との連携・回遊の強化
- 市役所新庁舎整備と一体的なまちづくりの実施

2-4 今後の社会情勢の変化を踏まえた課題

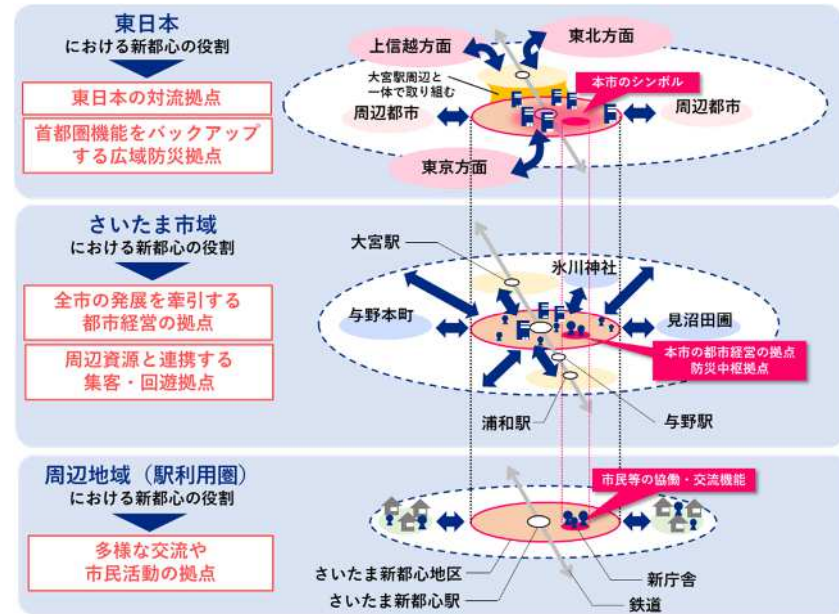
〈課題〉

- 地域固有の魅力の向上、さいたま新都心らしさの発信
- 新たな働き方にも対応し、企業内外の交流する場やイノベーションを創出する場の拡充
- 持続可能な社会をつくるためのデジタル技術の積極的な活用
- 防災性の向上に寄与するインフラ施設の更新
- ゼロカーボンシティ実現に向けた環境施策の導入

1 さいたま新都心が今後果たすべき役割

- 国や本市の上位計画における位置づけ、各都心及び周辺地域の状況から、さいたま新都心地区外や大宮駅周辺地区、さいたま市域、そして東日本との連携が必要である。
- 今後果たすべき役割を圏域毎に設定し、波及効果の高いまちづくりを推進していくこととする。

■ 圏域別視点からみたさいたま新都心の役割

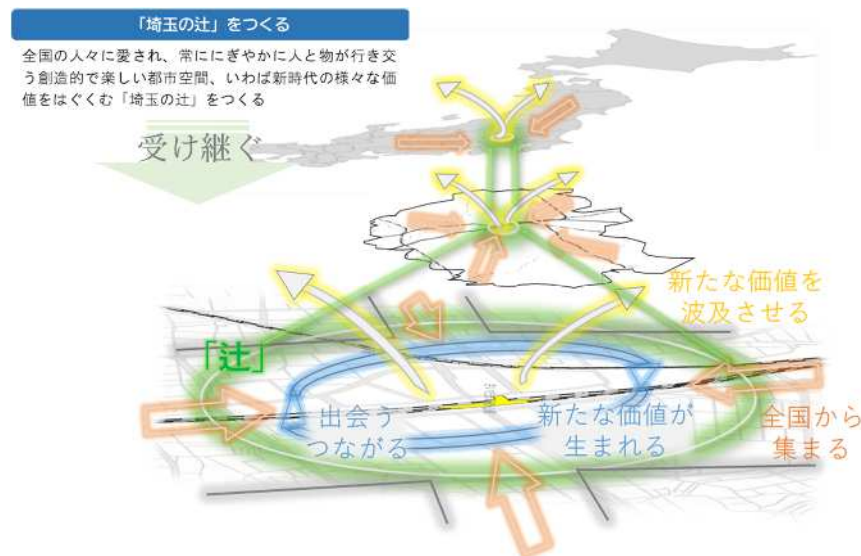


● 全国に波及効果を与えるまち

さいたま新都心は周辺地域から東日本まで圏域毎の役割が求められている。これらの役割を果たしつつ、さいたま新都心が全国に波及効果を与えるまちとして更に発展を遂げるには、集積された都市機能、整備された都市基盤により全国から集う多様な人々が、出会い・つながることにより、新しい価値が生まれるようにすることが重要である。

したがって、まちびらき当初の土地区画整理事業における目標を受け継ぎ、アップデートされた「東日本・さいたま・地域の辻」としてさいたま新都心を更に発展させていくことで、経済・文化の脈動を、埼玉、東日本、そして世界へと波及させていき、さいたま新都心の価値を引き上げ、全国に波及効果を与えるまちにする。

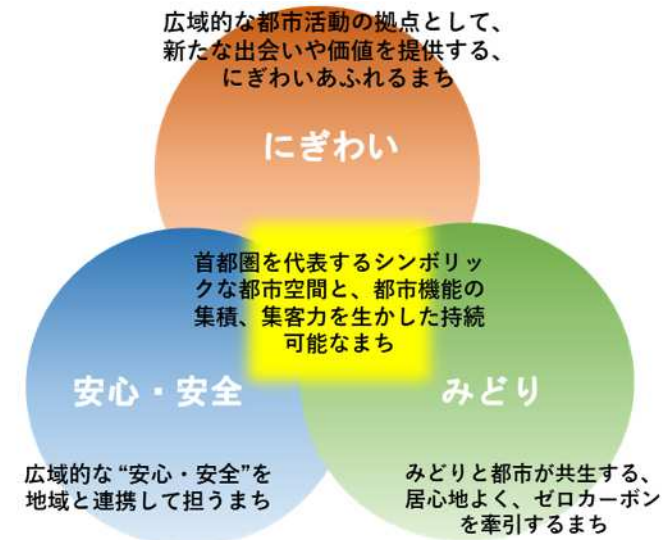
■ 波及効果を与えるまちのイメージ



1 まちの将来像

- さいたま新都心の成り立ちや状況を踏まえて、概ね 30 年後(2050 年頃)のまちの将来像を「首都圏を代表するシンボリックな都市空間と、都市機能の集積、集客力を生かした持続可能なまち」と設定する。将来像は行政だけでなく、まちづくりに参画する市民と事業者が共有することが重要であるため、将来像を「安心・安全」「にぎわい」「みどり」毎に分け、それぞれに目標を設定する。

■ 将来像の概念図



目標 1 広域的な都市活動の拠点として、新たな出会いや価値を提供する、にぎわいあふれるまち

- ・ 大宮駅周辺地区と一体的な都心としての形成を進め、浦和駅周辺地区との機能分担・連携を図る。
- ・ さいたま新都心で集積された都市機能、整備された都市基盤の強みを上手に生かしつつ更に機能の充実や集積を図っていき、人や企業を呼び込む。就業者、来訪者、周辺住民が互いに出会える場を増やし、交流を促す都市活動の拠点として、ヒト・モノ・情報が出会い、新たな価値が生まれ、にぎわいあふれるまちを目指す。
- ・ さいたま新都心に行き交う人々の多様なニーズに柔軟に対応するため、先進技術を積極的に活用したサービスを提供することで、新しい価値を創出し、人中心のまちづくりを目指す。
- ・ まちづくりの推進に当たっては、エリアマネジメントの取組や公有財産の活用といった、既存ストックを生かし「そだてる」ことを意識していく。

目標 2 広域的な“安心・安全”を地域と連携して担うまち

- ・ 災害時には、行政機能をバックアップする拠点として首都圏の安心・安全の要になるまちを目指す。
- ・ 災害時に就業者、来訪者、周辺住民が安全にさいたま新都心に避難できる、安心・安全を担うまちを目指す。
- ・ 近年多発している自然災害や大規模事故などの脅威や異常事態に対して柔軟に対応でき、都市機能が維持されている「レジリエントなまち」を目指す。
- ・ 平時には、すべての人が快適で安全に行き来できる移動手段や環境が備わっていることにより、安心して過ごせるまちを目指す。

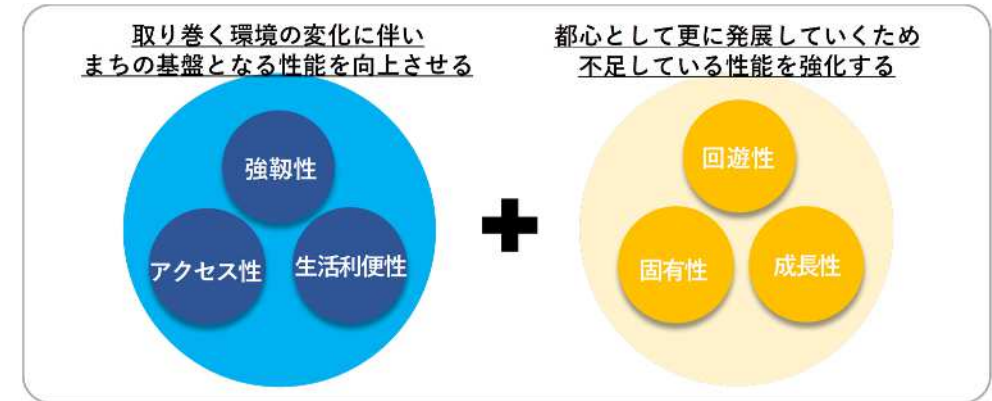
目標 3 みどりと都市が共生する、居心地よく、ゼロカーボンを牽引するまち

- ・ グリーンインフラの取組を推進し、歩きたくなる、居心地の良い空間の創出を目指す。
- ・ 見沼田圃、氷川参道等の地域資源を生かし、みどりのつながりや回遊性の創出により、みどりと都市が共生する持続可能なまちを目指す。
- ・ 脱炭素社会に向けて、ゼロカーボンシティの実現を目指す。

1 目標達成に向けたまちづくりの戦略

- これまでのさいたま新都心では、都市施設やインフラ、建築物等を中心とした整備が行われ、交通網の充実により、首都圏及び国内外の人が訪れやすい「アクセス性」、国の機関や大型集客施設が整備され広域防災機能を有する「強靱性」、商業施設や医療施設、公園が整備され、暮らしやすく過ごしやすい「生活利便性」が高い水準で備わってきた。しかしながら、まちびらきから年月が経過するとともに、大宮駅周辺地区での大規模な開発が進められるなど、さいたま新都心を取り巻く環境の変化に伴い、まちの基盤となる性能を更に向上していく必要がある。
- 一方で、都心として更に発展していくためには、これまでの都市基盤整備を活かして、現在不足している「多様な人々が集まり、出会い、つながり、新たな価値が生まれる」まちづくりを実施していく必要がある。そのために、他都市にはないさいたま新都心だけの魅力を高めていく「固有性」、人が出会い・つながる機会を創出する「回遊性」、まちに関わる人々が新しいことに挑戦できる「成長性」の3つの性能を強化する。
- 以上のことから、デジタル技術やデータを積極的に活用しながら施策実現に取り組む。

■ まちづくりの戦略



2 まちづくりの施策と取組

目標1 広域的な都市活動の拠点として、新たな出会いや価値を提供する、にぎわいあふれるまち

施策1 高次都市機能の集積を図る

- ・大宮駅周辺地区と一体的な、更なる都市機能の集積
- ・国で検討している大宮駅西口交通結節点事業と連携した新たなまちづくり
- ・市役所本庁舎の移転
- ・土地利用転換をする際の高度利用や街並みづくり

施策2 交流が生まれる場をつくる

- ・公共空間を最大限に活用した多様なイベント開催
- ・創造の場となる空間や市民交流が生まれる機能を市役所新庁舎に導入
- ・市内経済拡大に資するスタートアップ企業の戦略的支援
- ・にぎわいを創出するための歩行者デッキの検討（3D都市モデル活用）
- ・さいたま新都心での市民活動の支援

施策3 まちの魅力を高め、発信する

- ・シンボリックで個性豊かな空間形成
- ・本市の魅力を市内外に発信する機会の創出
- ・建築物の建替えや公共施設の整備を行う際の都市景観との調和
- ・みどりを生かした地域の魅力向上

目標2 広域的な“安心・安全”を地域と連携して担うまち

施策1 広域防災拠点としての機能を強化する

- ・災害時の首都圏のバックアップ拠点として連携を強化
- ・救援物資の輸送・集配、緊急車両の移動の円滑化
- ・大規模災害時の避難場所や活動拠点となるオープンスペース整備
- ・広域的な支援・受援機能を市役所新庁舎に整備

施策2 災害時のまちの安心・安全を確保する

- ・災害発生時に市民、来訪者、就業者の安全を確保する取組
- ・市民の防災中核拠点として災害時の本部機能を新庁舎に整備
- ・インフラ施設の計画的な維持管理・更新
- ・民間ビル等の施設管理者同士が共有する防災行動指針の作成
- ・延焼リスクを軽減する街並みルールの検討

施策3 移動の快適性と安全性を高める

- ・さいたま新都心バスターミナルの再編検討
- ・大宮駅方面、与野駅方面、氷川参道、見沼田圃等へのアクセス性の向上
- ・市役所新庁舎に訪れる誰もがアクセスしやすい環境の整備
- ・新交通システム導入の検討
- ・さいたま新都心地区内の移動経路及び生活関連施設のバリアフリー化
- ・歩行者・自転車の交通安全

目標3 みどりと都市が共生する、居心地よく、ゼロカーボンを牽引するまち

施策1 みどりを軸としたウォークブルを推進する

- ・さいたま新都心駅と大宮駅の区間における歩行者の流れの更なる創出
- ・見沼田圃、氷川の杜、氷川参道等の地域資源とのみどりのつながりや回遊性の創出

施策2 居心地よい空間を創出する

- ・市役所新庁舎整備街区におけるオープンスペースの整備
- ・居心地よい空間創出のため、グリーンインフラの取組の推進

施策3 まち全体に脱炭素化を展開する

- ・再生可能エネルギー等の導入拡大
- ・市役所新庁舎をはじめ公共施設を中心とした脱炭素化
- ・市民、事業者及び行政による省エネルギー行動の促進

1 まちづくりの主体と役割

- ・行政：市全体の公益向上の観点からインフラの整備、維持管理、エリアマネジメントへの支援等
- ・まちづくり組織：まちの課題解決や価値向上に向けて、取組を推進
- ・周辺住民：生活の質の向上の観点から、地域主体の活動への参加やコミュニティの形成
- ・事業者：企業価値の最大化の観点から、まちづくりへの参画や街並み維持への協力

2 エリアマネジメント組織との連携によるまちづくりの推進

- ・本市はエリアマネジメント組織と役割分担した上で、きめ細かい連携を図りながらまちづくりを推進。

3 進捗管理

- ・進捗管理は、事業の具体化に合わせて「総合振興計画実施計画」へ位置付けるなど、PDCAサイクルにより計画的に実施。

令和5年度スケジュール（予定）

・7月1日 シンポジウムにて中間案の周知・意見聴取

・11月末 改定素案作成

・12月～令和6年1月 パブリック・コメント

・3月 さいたま新都心将来ビジョン改定